

(公社)日本プロゴルフ協会

# PGA REPORT

PGA THE PROFESSIONAL GOLFERS' ASSOCIATION OF JAPAN

No. 133

Jan. 2021



2020年PGAシニアツアー賞金王 寺西 明

会長提言／今年をPGAの未来を考える年に  
2020年PGAシニアツアー総括 コロナ禍で8試合が開催  
資格認定プロテスト 出場116名47位タイまでの51名が合格  
PGAジュニアリーグ 全国6地区で新たなスタート  
Spotlight／伊東弘昭 坂入啓太 中村成希 山田貴弘

# 活躍するティーチングプロ



*Spotlight*

TEACHING PRO  
SPECIAL

伊東 弘昭

(いとう ひろあき)

K&M ゴルフスクール

## 「一つ一つの仕事を一生懸命に コツコツ積み重ねてきた結果です」

異色とも言える経歴  
銀行員を辞めて研修生に

銀行員とプロゴルファー。イメージとしては、ほとんど共通点はないと言ったら、言い過ぎだろうか。しかし、この、かけ離れたようにも見える仕事をどちらも経験しているのが、ティーチングプロB級の伊東弘昭だ。

生まれは神奈川県横浜市。高校を卒業後、東京の地方銀行に就職する。しかし数年後、バブル崩壊。伊東は、会社とクライアントとの間で板挟みとなり、体調を崩した。「いまでいう“うつ”ですよ。周囲に迷惑がかかると思い、退職

しました」

療養中、次の仕事を考えていたときに浮かんだのが、大好きなゴルフだった。銀行員時代、顧客と毎週のようにラウンドし、80前後のスコアをマークするほどになっていた。

「またサラリーマンをやると、もっと悪くなるんじゃないかという不安がありました。それで、研修生募集をしていた那須ゴルフ倶楽部(栃木県那須郡)に入れてもらったんです」

しかし、ツアープロへの道は厳しかった。3年契約の2年があったという間に過ぎた。

「結果も出ず、年齢も30歳に近

くなっていましたし、もう研修生としては契約更新してもらえないだろうと思っていました。そんなとき声をかけてくれたのが、K&Mゴルフスクールの久我正彦ティーチングプロでした」

伊東は、PGAとは別の団体のアシスタントプロという資格でレッスンを始めた。レッスンのやり方は、久我プロから仕込まれた。「でも、レッスンの知識はなく、勉強もしてなかった。ただ仕事としてやっていた感じでした。一生懸命にやっただし、誠実さが買われたんでしょうかね」

転機になったのは2004年。久我プロの師匠、故・菰田正廣プロ

からザ・ダイナミックゴルフ倶楽部(現・グリーンアカデミーCC、福島県)に誘われた。

「“元銀行員だから、パソコンもできるだろう。手伝え”という感じで。サラリーマンはやりたくなかったのですが、出向いたら、もう給料も決まっている状態でした(笑)。でも、与えられた仕事は一生懸命やりましたし、おかげでいろいろなことを覚えられました」

それまでレッスン生だけだった仕事の対象が、不特定多数の来場者変わった。パーティの企画から、結婚披露宴の司会までやった。また、同倶楽部で行われていた福島オープンゴルフ(現・ダンロップ・スリクソン福島オープン)で、競技の運営ノウハウも学べた。

#### レッスンからイベントの企画・運営、TV出演まで幅広く活躍

2008年、もう一つの転機がやってくる。K&Mゴルフスクールの所属プロが、家庭の事情などで次々と辞め、久我プロだけの状態となっていた。伊東はゴルフ場を退職した。

「私も含めてお手伝いしているプロはいましたが、それでは複数の練習場のレッスンを回せません。何より、この世界に誘ってくれた久我プロが苦しんでいたわけです



から」

レッスンに専念するようになり、2009年にはPGAティーチングプロB級の資格を取得、これも伊東には大きかったと言う。レッスンへの自信が生まれた。

「それまでは、一生懸命ですが、上っ面です。自分ではできるけれど、相手には伝えられない。それが、ちゃんと知識を入れて、何かを聞かれても、論理立てて説明できるようにになりました。もう全然違います」

伊東の活動の場は一気に広がった。練習場におけるレッスン、ジュニアスクールはもちろんのこと、ダンロップ・スリクソン福島オープンの事務局をはじめとして、これまで数多くの試合の運営も行っている。

また、福島県プロゴルフ会として、プロアマ大会やプロとジュニアの交流会など、多くのイベントも開催し、講師としても指導。さらに、福島のローカルTV番組の企画・出演もするなど、その活躍はティーチングプロの枠に収まらない。

「仕事を一つ一つ、一生懸命やるしかないで、やっていたところ、さまざまな方面から声がかかるようになっただけです。テレビだって、自分が出ただけですから(笑)」

もちろん、伊東なりの謙遜だ。何度も出てきた“一生懸命”という言葉から、元銀行員らしい生真面目さとさまざまな経験が合わさり、大きな花を開かせている。「イベントなどをやっている、私たちがいかに狭い世界で生きているかを知らされます。“えっ? こんな近くにプロがいるの?”と言われたりします。でも、一つ一つ成功させていけば、“プロが身近にいて、すぐに相談できるんだ”とか、“福島のプロに頼めば、全部ちゃんとやってくれるんだ”となるし、それがまた次につながります。そんなふうに福島のプロの認知度が上がっていくことが、今後の夢ですかね」

最後に、照れ隠しのように付け加えた。

「結局はこれも、自分のためなんですけどね(笑)」

